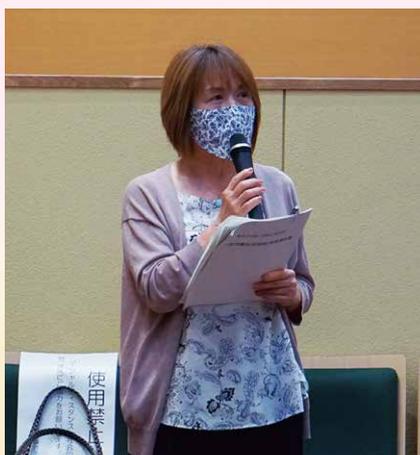
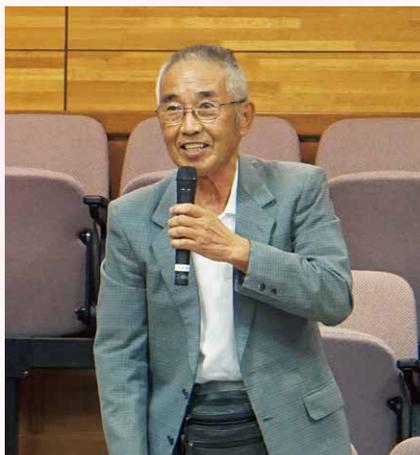


小野市議会だより

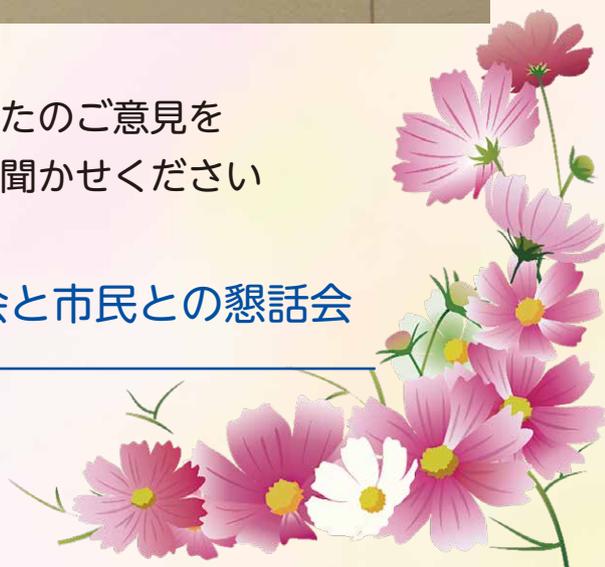
2020.11
No.194



あなたのご意見を
お聞かせください

特集

議会と市民との懇話会



議会と市民との懇話会

“参加する。発言する。実現する。”



懇話会を終えて

懇話会に参加してみてもいい

議会用語ではなく、簡単な言葉でやりとりできるのでわかりやすい。
何度か質問したが、さらに多くの人が質問することにより充実した会になるのでは。

細かい質問でも丁寧に答えていただけて納得できた。

懇話会で発言してみてもいい

- 質問**
- ・ 国勢調査について
 - ・ 公共料金のクレジットカードでの支払いについて
 - ・ KDD I跡地活用の提案
 - ・ 予防医療について
 - ・ 特別定額給付金を辞退した方はおられるのか
 - ・ いきいき100歳体操について
 - ・ 人間ドックの助成について

第423回定例会 令和2年9月

第417回定例会（令和元年6月）から、一般質問や答弁の再確認等を行うことにより、議会をより身近に感じていただこうと、本会議休憩中に、傍聴者の方から市長や議員等に質問をしていただく時間を設けています。
市民の皆さまの率直な声をお聞かせいただける貴重な場として続けてまいりました。
今回は、懇話会の後、感想や取組に対するご意見も頂戴しました。いただきましたご意見は今後の議会活動に生かしてまいります。



懇話会での発言

直接市民の思いが伝えられていて、良い機会だと思う。
開かれた議会が進んでいると思う。
前もって懇話会の質問を用意してこないとなかなか難しい。
事前にもう少しPRしてほしい。
市民、当局、議員の意識が高いからこそ上手く実現している。
もう一歩進めて、地域での懇話会ができれば市長への手紙やこのような懇話会などを通じて市民から直接行政に質問、提言できる機会が増え、より議員の必要性が問われる。議員の知識、資質の向上がますます望まれる。

これまでの意見

第417回定例会 令和元年6月

質問 東播磨道建設の進捗を教えてください。
答弁 財源となる国家予算の確保が課題となっています。完成予定は令和6年です。

その他の質問

- ・ 防災無線の整備を進めてみてはどうか
- ・ 北播磨総合医療センターでの待ち時間の短縮
- ・ 倒壊しそうな空き家について市で対応できないか
- ・ DV防止推進体制の強化が必要
- ・ 高齢ドライバーの免許返納後のサポートについて

第418回定例会 令和元年9月

質問 アライグマに手を焼いています。うまく共生できる方法はないのですか。

答弁 猟友会小野支部に捕獲をお願いする傍ら地元による里山の整備、鳥獣侵入防止柵の整備を促し、人との棲み分けを推進していきま



その他の質問

- ・ 土地開発をする際の埋蔵文化財の調査について
- ・ 河合地区を活性化するための方法について
- ・ 神戸電鉄粟生線活性化協議会について

第419回定例会 令和元年12月

質問 消防職員の人数は充足していますか。

答弁 普段の消防・救急活動の出動状況からすれば適正な人数です。大規模災害発生時には消防の人数では足りず、市職員をはじめ警察、自衛隊などの関係各機関並びに、自治会の皆様の協力も必要となります。



その他の質問

- ・ 北播磨総合医療センターの予約診療について
- ・ 議会の開催中の休憩時間の見直しをしてみてもいいか
- ・ 地元河川の草刈りについて県や市で協力できないか
- ・ 小野アルプスのハイカー向けの看板の充実を

第422回定例会 令和2年6月

質問 災害時に備えて公民館に簡易トイレを設置しては。
答弁 災害時のトイレについては簡易トイレ・マンホールトイレ等の活用が考えられる。簡易トイレの備蓄について再度検討します。

その他の質問

- ・ 夏休み期間における子どもの登下校の暑さ対策について
- ・ 子どもの登下校支援ボランティアの暑さ対策について
- ・ 児童生徒の登校中の飲料支援について

ぜひ議会傍聴にお越しください。



ここが聞きたい 一般質問!!

市民のみなさまの生活に
関わることに、
9人の議員が
一般質問を行いました。

(一般質問は発言した議員が編集しました)



●一般質問とは……

市政全般にわたり、執行機関（市長）に対し事務の執行状況や将来における政策方針等について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
また、小野市では、市長から提出された議案についても一般質問することができます。

●質問テーマは？

1. 質問する内容は、議案とは関係なく議員個人が自由に決めています。
2. 議員個人が自分なりの問題意識を市政に問い、市の見解を求めます。

●質問の制限時間は？

1人あたりの制限時間は40分です。(答弁は含みません)



《一般質問をスマホ・タブレットで視聴できます!》

各議員の顔写真の下のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、その議員の一般質問などの動画をご覧いただけます。



前田光教議員 (市民クラブ)



旧庁舎解体工事契約と跡地は？

答弁 来年（令和3年）3月末に更地として返却!

質問 契約の背景、旧庁舎跡地の活用は？

答弁 跡地開発業者が撤去工事を請け負うことにより、重複工事を削減することができ、コスト削減や工期短縮が見込めるため、契約金額は予算額の72%となった。跡地は、地権者（熊野神社）と開発業者により商業施設を誘致されると聞いている。

(市当局)



庁舎56年 桜55年

質問 昭和40年に植樹された、東駐車場「桜の木」の今後は、また、旧庁舎跡地を含む、市街地全体の都市計画構想は？

答弁 当面は安全を確保しながら、桜は残しておく。ただし、もうひとつの考え方は、市民のおもいが伝わってくるなら、一定の予算をかけてでも最先端の技術革新による残し方にチャレンジすることも考えられる。残すにも意味が違うので今後議論していく。

庁舎跡地を含む都市計画は、新庁舎周辺、市街地の中の土地の有効利用、東播磨道やスマートインターチェンジといった道路網を含めた市内全体における都市計画を総合的に考えていく必要がある。
若手職員の人材育成と夢を持たせる企画力を図る! (市当局・市長)

川名善三議員 (公明党)



「新しい生活様式」への取組は？

答弁 様々な分野へICTを積極的に活用

質問 GIGAスクール構想によりオンライン学習のための端末や機器の整備が進むが、児童生徒や教員が自宅で使うICT環境の整備計画は。
答弁 児童生徒が自宅でオンライン学習ができるよう、家庭への貸与等備したい。教員についても同様としたい。(市当局)

未就学児へのスマホ育児について

質問 スマートフォンの普及拡大により、利用年齢の低年齢化が進んでいる。適切な利用法などについて、未就学児やその保護者への啓発教育の必要性があるのでは。
答弁 市としても課題としてとらえており、今後1歳6か月児健診と3歳児健診においてスマホの上手な使い方に係る健康教育と保健指導を行う他、子育て応援アプリ「おのっこなび」等で啓発を進めたい。(市当局)



触れずに手洗い

松永美由紀議員 (市民クラブ)



同時流行への対応について

答弁 インフルエンザワクチン接種勧奨に取り組む

質問 日本感染症学会が、今年の冬に新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが同時流行した場合に備え、医療機関がとるべき対応について提言を発表した。それによると、発熱や咳などの症状だけでインフルエンザと診断すると、症状の似ている新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行を最大限に警戒すべきとしている。本市においても、予防策に取り組んでおられると思うが、現在、市からの助成により無料で受けることができる65歳以上の高齢者に加え、現在は任意接種となっている64歳までの市民へのインフルエンザワクチン接種を勧奨し、その費用を助成するという考えはないか伺う。



インフルエンザ流行に備え
予防接種 (市当局)

藤原貴希議員（紡ぐ未来）



教職員の働き方改革推進を！

答弁 業務の明確化・適正化を進め改革を推進

質問 教職員の働き方改革を目的とした業務の明確化・適正化に向けての進捗状況は。

答弁 小野市では校務支援システムを利用した校務のIT化等、働き方改革を進めてきた。

本年3月から新型コロナウイルス感染症対策などの業務が増え、業務の適正化の推進に至っていない。感染症対応の中で見えてきた新たな視点も加え取組を推進していく。

（市当局）



部活動の転換期がきている

部活動のあり方について

質問 教員の働き方改革、少子化による部活動の減少などの観点から、今後の部活動の方向性についてどう考えるか。

答弁 少子化や教職員の働き方改革の視点からも部活動のあり方を問い直す必要がある。

今後は「合同部活動方式」などと並行し、今年度任用しなかった部活

動指導員の活用など情勢を見ながら再検討していく。

（市当局）

大規模災害に関わる受援計画、業務継続計画の策定について

質問 災害時ボランティア等の応援を最大限生かすための受援計画や業務継続計画の風水害編を策定する必要があると考えるが、進捗状況は。

答弁 受援計画は12月までに作成予定。業務継続計画の地震編は策定済み。風水害編の策定予定はないが、今後の検討課題としたい。（市当局）

久後淳司議員（紡ぐ未来）



水道料金無料化延長できないか

答弁 無料化の検証や、財政状況等を勘案し決める

質問 市民の暮らしを守るため、また平等に行き渡る支援策として始めた本事業を、さらなる支援として、財政面でも積極的に延長を検討するべきではないか。

答弁 コロナ禍の中、市民の方々が自宅で過ごす時間が増えることでの実質的負担を減らすこと、新しい生活スタイルへの意識改革を狙いとして無料化を行った。

小野市は早くから計画的に管路更新を行っており、管路経年化率4.0%で、全国平均よりも良好に推移している。さらに、利益剰余金も約20億円あり、インフラ整備への影響もないことから、無料化した検証と市の財政状況、今後の戦略的な水道事業の構築等を勘案しながら継続するか決める。



「水を大切に！」（市長）



草刈り作業は体力が必要

質問 自治会の行う草刈作業への補助ができないか。

答弁 多面的機能支払交付金の活用以外にも、市が独自に補助してよいと考えている。ただし工夫することが重要。補助を希望する自治会で工夫を凝らした計画案を作成し、市と協議した上で、省力化・負担軽減に必要と認められた場合には、例えばリモコン操作できる大型草刈機等の購入に対して、一定割合は補助する。

（市長）

喜始真吾議員（紡ぐ未来）



予算執行と来年度予算について

答弁 「選択と集中」を図り、健全財政を維持する

質問 今年度事業で見直しされたものの、また、見直しされた事業について来年度はどのように考えるか。

答弁 財政状況は厳しさを増すことが予想される中、必要性や効果等をゼロベースで見直し、事業の「選択と集中」を図ることで、持続可能な健全財政を維持したい。（市当局）

答弁 リセッションは避けられないが、不要不急の事業の延期やイベント等を中止する。

一方で小野市流定額給付金を全市民に給付する等の補正予算も考えている。

（市長）

スマートインターチェンジについて

質問 三木サービスエリアに計画されるスマートインターチェンジの小野市に与えるメリットは。

答弁 山陽自動車道へのアクセスが向上することで、国道175号に接



三木サービスエリア

続する道路や周辺の交通渋滞が緩和され、工業団地や流通等業務団地、ひょうご小野産業団地への時間も短縮されて将来のさらなる小野市のまちづくりに寄与する。（市当局）

答弁 必要性はある。また、関係する道路網の整備は次の小野市の財政事情を踏まえた大きな戦略的な政策になるとともに、北播磨全体の損益につながる。（市長）

高坂純子議員（市民クラブ）



ウィズコロナと観光産業

答弁 「行政も経営」持続可能な観光戦略を

質問 小野市におけるマイクロツーリズムの開拓について

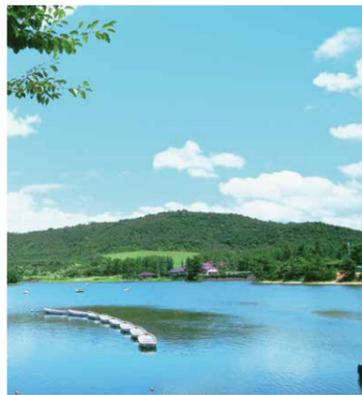
答弁 今までから身近な施設についてもPRに努め、市民の皆さんに楽しんで頂いている取り組みがマイクロツーリズムと捉えている。

質問 今こそ地元再発見が観光産業になるのでは。

答弁 経済効果は見込めない。一人ひとりの価値観も違うため、市民独自の発想で行って頂きたい。（市長）

質問 コロナ禍でアウトドア人気の中、鴨池キャンプ場の利用ニーズに応じた今後の展望について

答弁 ①土地所有者である自治会との調整が必要。②県立自然公園特別地域内のため制限がある。③鴨池周辺の観光施設を含めた観光振興を検討する必要がある。なお、昨年の4月から10月までの利用状況は1,234人。（市当局）



県立自然公園「鴨池」

質問 KDDI跡地を生かし、新しいキャンプ地を作れるような他には無い壮大な計画はできないのか。

答弁 多様な価値観を認めながら多面的な観光戦略をどうするか、従来型ではなく、持続可能な拠点を作る。

質問 小野市観光協会のあり方について

答弁 自立した組織機能としてどう再生するか。観光協会のリーダーが主体的に行動すべきである。（市長）

河島 泉議員（紡ぐ未来）



QRコード



高齢者福祉計画等について

答弁 高齢者のICT活用は生活の向上に有益なツール

質問 第8期介護保険事業計画での高齢者のICT活用必要性について問う。

答弁 高齢者のICT活用力の向上を第8期介護保険事業計画に盛り込むことについて、今年度の協議会で協議する。

行動の主体は行政と市民の皆さんであるので市民、民間団体、高齢福祉に携わる全ての皆さんのニーズにより考えていく。
(市当局)



高齢者のICT学習模様

障がい者に対する配慮について

質問 障がい者に対する心のケア等のために専門的人材の増員の予定は。

答弁 現在、社会福祉課に社会福祉士、精神保健福祉士の有資格職員1名、小野市障がい者地域生活・相談支援センターに精神保健福祉士2名を配置している。今後も現状の体制で対応する。
(市当局)

質問 手話通訳者の配置について問う。

答弁 手話通訳者の資格を持つ職員が本年3月末で退職したが、現在、社会福祉課には手話通訳1級、2級の資格を取得した職員が2名おり、対応している。今後も手話に対応できる職員を増やして行きたい。

また、県が新たに手話遠隔サービス事業を展開していくが、小野市も同サービスに手を挙げており、今後の進捗状況に合わせてシステム構築を進めていく。
(市当局)

常任委員会審査報告

9月定例会の提出議案審査について、8月27日に総務文教、9月24日に総務文教、民生地域の各常任委員会を開催しました。

総務文教常任委員会

8月27日開催

付託議案数：1件（議案第65号）

審査結果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきと決定。

委員会の意見：解体工事に際しては、アスベストなどの有害物質の飛散防止を徹底するなど近隣住民及び周辺への環境に十分配慮しながら工期内に完了すること。

9月24日開催

付託議案数：4件（議案第59号・64号・66号・68号）

審査結果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきと決定。



総務文教常任委員会



民生地域常任委員会

民生地域常任委員会

9月24日開催

付託議案数：5件（議案第60号・61号・62号・63号・67号）

審査結果：反対討論はなく、全会一致で可決すべきと決定。

議会用語解説

会派とは：議会内で結成された同じ考えをもつ2名以上の議員のグループのことを言います。現在小野市議会では、「市民クラブ」、「紡ぐ未来」、「公明党」の3つの会派があります。

常任委員会とは：議会の内部機関で議案などを詳細に審査したり、市の事務を詳細に調査するために常時設置される委員会です。現在小野市議会では、「予算決算常任委員会」、「総務文教常任委員会」、「民生地域常任委員会」の3つの委員会があります。

特別委員会とは：常任委員会とは別で、特定の問題を審査・調査するために必要に応じて設置される委員会です。現在小野市議会では設置されていませんが、直近では新庁舎の建設に関して「新庁舎建設特別委員会」が設置されていました。

新型コロナウイルス検査体制の拡充を

答弁 国・県の動向注視し、なすべき役割果たす

質問 いまPCR検査は感染が疑われる人しかできないが、教育、医療、介護、保育などの従事者は「感染しないか、感染させないか」と心配し、ストレスを抱えて仕事をしている。安心して働けるよう公的費用で定期的に検査をしてはどうか。

答弁 検査後すぐに感染する可能性もあり、本当に効果的か疑問がある。検査数を増やすことで感染が少なくなるデータもない。今の段階では難しい。
(市長)

国の条件に届かない事業者の家賃支援を

質問 国は「家賃支援給付金」を作ったが、①売り上げが前年同月比50%以上減、②連続する3か月の売上合計が前年同月比30%以上減という条件がある。国の条件に届かず、支援のない事業者に市独自の支援制度を作らないか。

今後のコロナ対策と支援について

質問 コロナは収束せず、長期戦になっている。支援を一回きりにせず、継続する必要があると思うが考えを伺う。

答弁 国の施策を見極めながら、今後の状況を見て判断する。
(市長)

藤原 章議員（日本共産党）



QRコード



民生地域常任委員会調査報告

令和2年8月4日(火)

市内企業の経営状況について

今後の支援策へつなぐ

市内企業の経営状況の把握

小野商工会議所によるアンケート調査

- ① 実施日：令和2年3月23日
調査対象：会員事業所及び小野工業団地内の企業 約1,100社
回答率：28%
- ② 実施日：令和2年6月19日
調査対象：会員事業所 1,037社
回答率：25%

◆ 各種事業者向け支援の利用状況（令和2年6月現在）

- ① 持続化給付金：26%
 - ② 日本政策金融公庫：15%
 - ③ 雇用調整助成金：8%
- 各種支援についてはそれぞれ50%～80%が使用しないと回答。申請が複雑であることや、50%以上の売り上げ減少など支援要件のハードルの高さがうかがえる。



◆ 小野市中小企業者等持続化支援金給付事業

(令和2年7月現在)

- 申請件数：109件 (20万円：31件 10万円：78件)
- 支給額：1,400万円

支援施策について

らっきやらっきや券の第2弾の可能性は？

- 現時点で予定はないが、飲食店以外にも広げるなどの検討の余地あり。 ※8月時点での市の見解



小野市中小企業者等持続化支援金の申請が少ない理由は？

- 周知はできていると思うが、国の持続化給付金の利用が多いためではないか。
- 国の持続化給付金の申請が可能かどうか微妙な位置づけの企業があるためか。

畜産・養鶏・認定農業者の経営状況の把握について

- 経営状況は把握していないが、小野市中小企業者等持続化支援金の申請はない。

小野市中小企業者等持続化支援金を国の持続化給付金対象者と同じように兼業農家まで対象を広げる可能性は？

- 交付の対象とする予定はない。

新型コロナウイルスの感染が長期化してきたことで、市内企業にとっては危機感が大きくなることが予想されます。持続化給付金の今後の申請の可能性を考えて、市の支援策への申込みを躊躇する事業所もあるように、業種によって困窮時期も違うため、業種別データのより正確さとピンポイントに的を絞った対応が必要と考えます。どのような施策が必要か今後の調査研究課題とし、検討してまいります。

総務文教常任委員会調査報告

令和2年7月13日(月)

学校再開後の運営について

新しい生活様式を取り入れながら

感染防止対策



一人一人前を向いての授業や給食



Zoomで全校朝会（特別支援学校）

児童生徒の心身の把握

- ・学校再開時アンケート
- ・年5回の生活アンケート（2か月に1回程度の実施）
- ・日記や生活の記録からの変化
- ・教職員による観察
- ・連絡帳や保護者からの情報



早期発見し、関係機関等と連携しながら
きめ細やかに早期対応する

発熱等の対応

校内で発熱や風邪症状が見られた場合、保護者へ連絡し帰宅させ、症状がなくなるまで自宅で休養となる。新型コロナウイルス感染症の感染が確認された場合は、保護者や医療機関、加東健康福祉事務所と連携して対応する。学級閉鎖や当該校の休校措置等は感染状況により決定するが、可能な限り学校の教育活動を継続する方向である。

熱中症対策

小野市では、普通教室はもちろん、特別教室等の空調設備に加え、体育館でのスポットクーラーや大型扇風機も活用している。また、今年度は遠方から通う児童に対し、夏時程の下校バスを運行した。

これらの他にも、カリキュラムや学習支援、学校行事、部活動、GIGAスクールプロジェクトの状況について調査を行いました。感染症対策と熱中症対策の両立が難しい中、児童生徒や教員の負担が少なくなるよう柔軟な熱中症対策の運用が図られていることを確認しました。

議会を傍聴しませんか

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、傍聴をお断りする場合がありますのでご了承ください。

☆12月定例会日程☆

- 11月30日(月) 午前10時～
本会議(第1日) 議案説明
- 12月17日(木) 午前10時～
本会議(第2日) 一般質問実施
- 12月18日(金) 午前10時～
本会議(第3日) 一般質問実施
- 12月25日(金) 午後1時30分～
本会議(第4日) 議案の採決など

- ★一般質問では、市長から提出された議案や、市政全般について議員が質問し、市長や部長等が答弁します。
- ★12月定例会で一般質問する項目・内容については、12月中旬に市議会ホームページに掲載します。

「手話通訳」・「要約筆記」を利用できます

本会議を傍聴される際に「手話通訳」・「要約筆記」を利用することができます。
希望日の8日前までに議会事務局にお申し込みください。
(費用負担はありません)



傍聴に行けなくても YouTubeで議会中継



マチイロ

アプリをダウンロードすると
スマホに
広報誌が
届きます!



傍聴席から見た議場

小野市議会では、本会議を一般公開しています。
当日受付で、住所・氏名を記入するだけで、どなたでも議会の傍聴ができます。

市役所6階 議会事務局までお越しください。

議会と市民との懇話会

一般質問が行われる17日(木)と18日(金)の本会議休憩中に、傍聴者から質問していただく機会を設けます。

議会傍聴を終えて疑問に思われた点など、ぜひ、ご意見をお聞かせください。

「託児コーナー」を開設

一般質問が行われる12月17日(木)、18日(金)は、「託児コーナー」を開設します。傍聴の際には、1歳から就学前のお子さまをお預かりします。12月9日(水)までに議会事務局にお申し込みください。
(費用負担はありません)



議会傍聴者数

9月定例会66名
(令和2年度累計 101名)

＜お申し込み先＞ 議会事務局 TEL. 63-1006(直通) FAX. 63-4108
E-mail: gikai@city.ono.hyogo.jp (市議会だよりへのご意見もこちらまで)

議員はこれгаできません

議員は、公職選挙法により、選挙区内において、寄附行為等が禁止されています。

- 選挙区内の人にお金や品物を贈ること
- 年賀状等の挨拶状(答礼のための自筆を除く)

(市議会広報編集委員
藤原貴希)

「禍」転じて「福」となるために、皆さまの生の声を頂戴したいと思っております。12月定例会へお越しいただき、「懇話会」にてご意見をいただければ嬉しです。

また傍聴においては、3月は中止、6月からは感染症対策の上傍聴していただいております。そんな中、昨年6月定例会より始めた「議会と市民との懇話会」が開始から一年あまり経過しました。特集ページで、傍聴してくださった皆さまのご意見を掲載しておりますので、是非一読ください。

「禍(わざわい)」が今年の漢字になりそうなの一年。議会においては3月、6月定例会での一般質問の方法を変更するなど、状況に合わせて対応してまいりました。

あとがき